

九州ルーテル学院大学
2026年度 一般選抜（I期）
試験問題

国 語

2026年 2月 7日（土）実施

注 意

- 1 「開始」の合図があるまで、試験問題を開かないこと。
- 2 問題は ～ で、9ページまでである。
- 3 「開始」の合図があったら、受験番号を解答用紙の受験番号欄に記入すること。
- 4 答えは、すべて解答用紙に記入すること。
- 5 「終了」の合図があったら、ただちに筆記用具を置き、解答用紙を裏返しにすること。
- 6 解答用紙のみ回収するため、問題冊子は持ち帰ること。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

〈私〉は〈私〉を演出することができる。〈私〉をいかにデザインするか——これを「自己デザイン志向」と呼んでおこう。この発想は極めて人間的なものだと言える。というのも、〈私〉自身を対象化し自己イメージを持たなければ、¹〈私〉をデザインすることはできないからである。〈私〉がどういう存在であるかを俯瞰して、その〈私〉が他者の眼にどう映るのかを予期できるからこそ、自己デザイン志向は可能になるのだ。

ヨーロッパ哲学が好む言い方をすれば、こうなるだろう。すなわち、人間は——他の動物とは異なり——「精神」を有することで、自己意識を生きる存在になる、と。精神の自己対象化の能力は重要なので、さらに詳しく考察していこう。(中略)ドイツの哲学者マルクス・ガブリエルは、精神の特徴をこう説明している。

人とのまじわりのなかで、行為やそれについての説明が大きな文脈のなかにどう収まるかをイメージし、そのイメージに照らしあわせて制度を構築する能力だ。人間は、いかなる状況においてもいまいる位置を超えて、ものごとの連関という、より大きな地図のなかに自分を絶えず置きなおす。われわれは、ほかの人びとがべつの前提のもとに生きていることを踏まえて、自分の人生を生きている。だからこそわれわれは、同類であるほかの人間がわれわれをどう見つめ、現実をどうとらえているかに関心を寄せるのである。

(マルクス・ガブリエル『新実存主義』、七〇頁)^{ページ}

〈私〉は他者とのかわりのなかで、〈私〉の行為の意味を物事の連関の中で捉えるようになる。別の前提を生きている他者の視線に^aバイカイされる

ことで、〈私〉とその行為が社会の制度にどう収まるかを理解するからである。〈私〉は大きな地図に示される自分の現在地を把握し、その同じ地図の中に存在する他者の現在地にも関心を持つ。そうして、共に生きていくための社会制度を絶えず描き直す。要は、自己意識(自己イメージ)によって〈私〉は社会的存在となる、ということだ。そして、それを可能にするのが「精神」なのである。

しかし、注意すべきは、こうした²自己イメージは、一度つくられたら固定されるものではなく、むしろ、他者との持続的なかわりにおいて、更新され続けるものである、ということだ。他者との新たな関係が、自己イメージを間断なく^bサツシンする。そうであるからこそ、〈私〉と他の〈私〉の共生を可能にするための社会制度を、そのつど必要に応じて、再検討することができる。自己と他者の関係性が生成する限り、自己イメージは変わらざるをえないのだ。

ガブリエルが「人間のあり方は、自分自身をどうとらえるかに本質的に左右される。自分が描いた自画像をふまえて、人は行動するからだ」(同書、七三頁)と言うように、人間の行動は自己イメージに左右される。が、その行動の結果を——他者のリアクションや法制度における妥当性などを——再度、自己イメージに統合することで、よりよい自己と関係性の在り方を模索するのである。

さて、この弁証法的運動を利用して生まれるのが、³自己デザイン志向である。それは、他者の視線を意識しながら〈私〉を演出することで、自己イメージを意図的もしくは無自覚に変えようとするのだ。つまり、〈私〉をデザインする——多かれ少なかれ、じつは誰でもやっていることである。

たとえば、ファッションに興味がある人なら、服装のかつこよさや美しさだけではなく、それが相手に与える印象をも考慮するだろう。ファッションを変えることで、自己をデザインするのだ。あまり試したことのない系統の服を着て、自分の新しいイメージを発見する。アクセサリーやカバンで気分を

上げる。メイクをする人なら、メイクの仕方によって〈私〉の印象は大きく異なる、ということを知っているはずだ。

それだけではない。あまり意識することはないかもしれないが、私たちは会う人によって少しずつ自己を調整している。(中略) 家族と休日を通す私、友達と酒を飲む私、大学で教える私、駅員さんに乗車場を聞く私、編集者と話し込む私……。どれも同じ私だが、それぞれちよつとずつニュアンスが違う。自己デザイン志向は、誰もが普段何気なくやっていることであり、もしまったくデザインできないとしたら、これは逆に、TPOをわきまえていない、ということになりかねない。

とはいえ、自己デザインには限度があるだろう。他者の視線をいつも気にして、その利害関係だけに関心を持ち、〈私〉の見せ方を柔軟に変えているとしたら、これはよく言えば **A**、悪く言えば **B** だ。特に、

〈私〉をうまくデザインすることで、他者からの承認や評価を自覚的に勝ち取ろうとしている人は、傍目から見るとあまり信用できない。というのも、その言葉や態度は、何らかの実利に結びついた演出にすぎないのではないかと、いつも疑念がつけねに出てくるからである。自己デザインに **c** コリすぎるあまり、他者からの不信を買っているとしたら、これはある意味では、自己デザインの失敗だとも言える。何事も自然なバランスが肝要である。

では、自己デザイン志向が **d** イカンなく発揮されるのは、どのような場所だろうか。そう問いを立ててみると、現実世界での諸々の制約に比べて、**4** サイバースペースでは自己デザインが格段に自由かつ容易である、ということが分かる。学校ではシャイで、友達に話しかけられるとすぐにオドオドしてしまう人でも、SNSでは打って変わって強烈な政治批判を繰り広げる。どれだけかっこよく見せようとしても、現実世界の身体には限界があるが、メタバースのAvatarは好きなように作り込むことができる。

だから、SNSやメタバースは、自己デザイン志向がおのずから優位になる場所なのだ。(ただし、メタバースでのAvatarが徐々に〈私〉に近づいて

いく、という興味深い現象もある)。

自己デザイン志向が優位になる空間で生起する承認関係や了解関係は、うまくデザインされた〈私〉同士が取り結ぶものとなるだろう。そして、現実世界の制約を打ち破るこの柔軟な可塑性は、新しい自己意識と関係意識を、それぞれの〈私〉にもたらす。というのも、〈私〉は何者なのかを〈私〉が決められるからである。ここには、**5** ポジティブな可能性がある。

たとえば、哲学の本の情報SNSで流し続ければ、〈私〉を哲学好きとして演出することができるとし、同じように哲学好きとしてデザインされた他の〈私〉と仲良くなれる。もちろん、ほとんどの場合、実際に哲学が好きなたちなのだが、重要なのは、他の部分には目をつむって——現実世界で対面したら、声の大きい威圧的な人かもしれない——哲学という一点でつながっていいける、ということである。つまり、デザインとデザインが噛み合えば、他の要素は無視できるのだ。ちなみに、私はこのことを基本的によりことだと考えていて、また、楽しいことだとも思っている。

* VRの研究をしている学生がこんな話をしてくれた。VRの世界では、人間だけではなく、蜘蛛や **e** エンピツになることもできる、というのである。たとえば、蜘蛛になってVR空間に入っていけば、巣を張って **ちゅう** 蝶を待ち伏せしたりする。エンピツになったら、誰かの手に持たれて、頭を紙に引きずられるのだろうか。学生によると、現実の身体とはまったく異なる身体性に最初は戸惑うが、VRを体験し続けることで、少しずつ慣れてくるらしい。そうして、徐々に蜘蛛の欲望を生きるようになる、というのだ。

蜘蛛の身体を手に入れることで、その欲望を生きるようになる——これはいわば「*メタモルフォーゼの快楽」である。(物理的)身体の変貌によって、欲望が変容する。八本の足を自在に操り、巣に蝶がかかるのを待つ。人間にはない緊張感である。それは「変身」であり、しかも空想の中ではなく、その変容を現に——〈私〉の身体として——体験することができるのだ。

身体と欲望の劇的な変化を味わえるなんて、それは〈私〉の新しい存在可能

を開いている、と言えるかもしれない。

しかし、〈私〉を自由にデザインするという発想は、〈私〉の存在をよく分らないものにするでもある。〈私〉の姿形や性格をどうにでも変えられるなら、それはいわば粘土みたいなもので、そこには〈私〉の形象がいつでも自由に潰されて、作り変えられる可能性が伴う。だとすれば、むしろデザインできない部分があるからこそ、〈私〉は〈私〉の存在が確かにそこにある、という手触りを感じられる、とも言えそう。

つまり、こうだ。〈私〉の自由にはならないものや、自己デザイン志向が力を及ぼせないものが、〈私〉の存在感に一役買っている。その一つが、〈私〉の抱える「弱さ」や「脆さ」なのだ。それは、デザインしきれない〈私〉の存在を指示するからである。

(中略)

6 変身した後でもなお、そこに変身前の〈私〉から引き継いでいるものを見出せるなら、それこそが〈私〉の自由にはならない〈私〉の存在を示唆するのだ。

(岩内章太郎『〈私〉を取り戻す哲学』による)

出題の都合上、一部編集した箇所がある。

注 VR:バーチャル・リアリティ、

コンピュータによって創り出された仮想空間を現実

世界のように体験できる技術

注 metamorphose:変身

問一 二重傍線部 a) e のカタカナを漢字に直せ。

問二 傍線部1「〈私〉をデザインすること」とあるが、それはどのような

ことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ
選び番号で答えよ。

- ① 〈私〉がどういう存在であるかの緻密な分析のもとに、どのような精神を有するかを把握し、社会的存在としての自分をデザインすること。
- ② 〈私〉がどういう存在であるかの客観的な把握のもとに、他者からどのように見えるかを予測し、社会的存在としての自分をつくること。
- ③ 〈私〉の存在を物理的高所から見下ろして把握したのちに、他者の眼にどう映るのかを予測し、社会的存在としての自己意識を立ち上げること。
- ④ 〈私〉が自身を対象化したのちに、自己イメージを立ち上げて、他の動物と同じように社会的存在としての自己を構築すること。
- ⑤ 〈私〉を人とのまじわりのなかでイメージした上で、他者から切り離された社会的存在としての自己をデザインすること。

問三 傍線部2「自己イメージは、一度つくられたら固定されるものではなく、むしろ、他者との持続的なかかわりにおいて、更新され続ける」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び番号で答えよ。

- ① 人間の行動を左右する自己イメージは、行動に対する他者のリアクションや法制度における妥当性などに応じて、その都度更新されるから。
- ② 人間の行動を左右する自己イメージは、様々な他者の視線に対抗するために、常に更新し続けられるから。
- ③ 人間の行動を左右する自己イメージは、法制度を乗り越えんとする考察を経て、よりよいものへと改良されるから。
- ④ 人間の行動を左右する自己イメージは、自己と他者の共生を可能にする社会制度を検討材料にし、変わり続けるから。
- ⑤ 人間の行動を左右する自己イメージは、他者のリアクションや法制度における妥当性などを統合し、よりよい倫理的自己を目指し続けるから。

問四 傍線部3「自己デザイン志向」とあるが、具体的な事例として当てはまらないものを、次の①～⑤の中から一つ選び番号で答えよ。

- ① おしゃれな人という印象を与えるために、流行の髪型に変える。
- ② 着心地がいい服が好きなので、どこへでも綿素材の服で行く。
- ③ 明るい人だと思われたいので、いつもより明るいメイクをする。
- ④ 教授も交えたゼミで、友達同士では使わない丁寧な言葉遣いをする。
- ⑤ 入学試験の面接で、正しい座り方や話し方に最大限の注意を払う。

問五 空欄 A、B に「当てはまる言葉の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び番号で答えよ。

- | | | |
|---|---------------|---------------|
| ① | A 「処世術に長けている」 | B 「器用な人」 |
| ② | A 「八方美人」 | B 「猫をかぶる人」 |
| ③ | A 「臨機応変」 | B 「要領がいい人」 |
| ④ | A 「利己主義」 | B 「立ち回りがうまい人」 |
| ⑤ | A 「世渡り上手」 | B 「裏表のある人」 |

問六 傍線部4「サイバースペースでは自己デザインが格段に自由かつ容易」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び番号で答えよ。

- ① 学校では自分の性格通りの振る舞いしかできないが、学校外では別人格になることができるから。
- ② 現実世界では身体が伴うので見た目が重視されるが、サイバースペースではアバターによって視覚情報が制限されるから。
- ③ 現実世界では、実際の自分自身の枠を超えられないが、サイバースペースではアバターを好きなように作ることができるから。
- ④ 学校では限定された人間関係に縛られるが、学校外では人間関係を考慮する必要がないから。
- ⑤ 現実世界では自分を変えることができないが、サイバースペースでは内面、外面両面における自分を完全に放棄することができるから。

問七 傍線部5「ポジティブな可能性」とあるが、それはどういうことか。その説明として当てはまるものを、次の①～④の中からすべて選び番号で答えよ。

- ① 自己デザイン志向が優位になる空間では、デザインされた者同士は相手の本来の性格をすべて無視することができる。
- ② 自己デザイン志向が優位になる空間では、デザインされた者同士がただ一点でつながることができる。
- ③ 自己デザイン志向が優位になる空間では、欲望に忠実に生きることができている。
- ④ 自己デザイン志向が優位になる空間では、人間以外の身体や欲望を経験することができる。

問八 傍線部6「変身した後でもなお、そこに変身前の〈私〉から引き継いでいるものを見出せるなら、それこそが〈私〉の自由にはならない〈私〉の存在を示唆するのだ」という筆者の主張に対してあなたはどうか考えるか。あなた自身の経験を織り交ぜながら二〇〇字程度で述べよ。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

合理性に a 則った資本主義的な生き方の一番大きな特徴を一言で表すなら、コントロールの欲求と言えるでしょう。私たちは流れゆく時間に貫かれて変化する世界のなかを生きています。もちろん、自分という存在も刻々と変わってゆきます。いわば、この先どんなふうに変わるかわからない、という不確定性こそが未来というものです。

I、まったく何もわからなくて不確定な未来に b 翻弄されるだけの生き方はあまりにも心細い、すこしでも安心したい。そのために知性を働かせ、未来に起こるだろうことを私たちは予測します。かつてであれば経験値で想像していた明日の天気は、c キシヨウエイセイの画像と過去の統計データで高い精度でわかるようになりました。予測によって自分を取り巻く環境の変化がある程度わかれば、今度は自分の行動を計画します。

なるほど、明日は降水確率八〇パーセントか。こんなときに真っ白のワンピースを着るなんて不合理な行動です。濡れても大丈夫のように（リスクを考えて！）紺のスカートにしよう。風が強いわけではないようだし、あんまり大きい傘があっても方が一予報が外れたときに邪魔だし、折りたたみ傘にしよう（リスクとベネフィットの計算！）。

II 私たちは確率に基づく未来予想を念頭に、自分の行動を計画します。変化する世界の行方は、客観的な確率で予測されるものに、流れる時間を生きる私のあり方は、予測に基づいた計画に。安心安全な毎日。そこにあるのは、自分のわからないもの、制御できない事柄をこの世界からできるだけ取り去りたい、というまさにコントロールの欲求です。不確定な未来ではなく、予測された先行きがほしい。方が一予想していないことが起こったとしても、できるだけ対処できるように準備を整えておこう。

こうして世界は

A

などではなく、

B

に

なってゆきます。そして、整えられた世界のなかで、私は安心して自分の人生を計画できるようになります。もちろん、自分で計画したら、準備もきちんと自分でしなければなりません。(中略)

振り返ってみるに、私はランドセルに入っている物を何度も何度も確認するよう用心深い子どもでした。そのくせ、時々そうした準備を整えられた状況がどうでもよくなる時があり、突然すべてを壊して **C** ことをやったりもするのです。(中略)

ものすごい矛盾です。徹底した合理性に則り未来を先取りして計画して進んでいこうとする態度と、すべてを壊していま一瞬だけ生きようとする態度。この両極端な態度の間で若い頃の私は自分を持って余し気味でした。整えては壊し、壊しては不安になって苦しむ。だからまた合理性に則って生きようとする。けれど、またそれを投げ棄てる。

そんなことの繰り返ししなかで、私は哲学と出会い、少しだけラクになりました。この矛盾が何なのか、哲学が——とくに*九鬼周造の哲学が——うまく説明してくれたからです。もちろん、説明できたからといって、うまく生きてゆけるわけではないのですが。(中略)

彼の名著である『偶然性の問題』(岩波文庫)を読んだとき、「なにこの本、変!」と思ったことだけは覚えています。異常に論理的なのに、最後の最後で非合理の極みである偶然性をやすやすと認めてしまう、そのジャンプっぷりに驚きました。でも、そのジャンプの仕方こそ、私が九鬼から学んだことです。人は合理性に則って生きようとする。しかし、どうしても無理なことがある。そのときは、「飛んでみる」。

この『偶然性の問題』という本はなにが変なのか、というのですね、もちろんテーマは「偶然性」なのですが、「偶然」ってこんなものですか、という話がなかなか語られないんです。まずは偶然性の対義語である「必然性」が説明されます。私たちは物事を考えるとき、一定の筋道、枠組みが

必要になってきます。 **III**、「リンゴは果物の一種だな」とか、「体重を減らすためには運動が必要だな」「リンゴが落ちたのは、重力が原因だな」というように一定の定型に当てはめて理解します。

それぞれの型は、全体と部分の分類、目的と手段の検討、原因と結果の **d** タンサクと色々ありますが、こうした型、思考の筋道に一致しているものは「必然的」と呼ばれます。基本的に私たちはこの必然性をもとに「合理的」にこの世界を理解し、未来を予想しようとしています。一定の型に基づいて、必然的に導き出される未来なら一安心、というわけです。知性をもつ人間は、この世界をそのように分類整理し、安定させることで進歩してきました。

九鬼はこの必然性の説明をさんざんします。ぱっと見たところ、必然性を見つけれないようなもの(つまり偶然)——たとえば四つ葉のクローバーも、よく考えたら原因が見つかるだろうと。で、さんざん必然性の話をしたあとに、彼は突然、「でも、いくら原因を追いかけてもわからないことがあるよね」と言い出すのです。たとえば、四つ葉のクローバーというのは、一般的な三つ葉のクローバーから見れば、例外的な「たまたま」のもので、けれど、四つ葉になった原因として、芽が出てすぐに人に踏まれたとか、日当たりが悪かったとか、栄養過多だとか、さまざまあげることができます。でも、なぜ、今日の前にある「この」クローバーが四つ葉であるのか、ということの原因を最終的に特定することってできるでしょうか。人に踏まれたのだとして、なぜ、芽が出てすぐのタイミングで人が通りかかったのでしょうか。通りかかったとして、なぜ葉の特定の場所をピンポイントで踏まれたのでしょうか。もし踏まれたとしても日当たりがよかったら普通に成長していたかもしれないのに、なぜ天候不順だったのでしょうか。そもそも、なんでそんなところに種が落ちたのでしょうか。

私たちは後付けで **1** もっともらしい原因を見つけることはできません。けれども、それらの原因がなぜ「このクローバー」に「いまこの形」で **e** シュウヤクしているのか、ということに関しては「色んなタイミングが

「たまたま重なったから」としか言えないのではないだろうか、と九鬼は考えました。だって、そんなところに種が落ちない可能性もあったし、落ちたとしても日差しがふりそぐタイミングの可能性もあったのに、なぜか、そうはならず、それらの原因が「このクローバー」の「いまのこの形」に収斂しゅうれんするように集まってきたのです。その収斂を導く必然性を見つけることはもはや誰にもできません。「たまたま」でしかない。²最終的にすべての物事の根本には、なぜいまこんなふうになっているのかを説明することのできない謎が残る。(中略) この最終的な謎のことを九鬼はドイツの哲学者シェリングにならって原始偶然と呼んでいます。

この原始偶然から考えてみれば、私たちが生きる現実というのは結局のところ必然なんて言えないんじゃないか、というのが九鬼の考えなんです。もちろん、起こったことの原因を追及し、これからやってくる未来に備えるために合理的に考えることは大切です。でも、流れてゆく時間のなかでさまざまな変化がある以上、各種の原因が次の瞬間にどんなふうに組み合わせられるのか、そこに至る複数の流れがどう収斂することになるのかを完全に決定づけるものはありません。

私たちの生きる現実とは、この一瞬にたまたまさまざまな原因が重なり合って、「いま」が生まれ、新しい予想もしていなかった未来が展開してゆく、そんなふうに成り立っているのではないでしょうか。わからない未来に向かつて「いま」を生み出すもの、それが偶然なのだ、だから偶然は

D だと九鬼は言っています。

だからといって、九鬼は合理性を追求してもムダだとか、必然性に意味がないと言っているわけではありません。彼が『偶然性の問題』を必然性の分析から始めたように、知性をもって合理的に生きようとする私たちは精いっぱい、必然性を求め、流れる時間のなかで変わってゆく世界を統御しようとします。そして、人生を安定させたいと願います。そうやって人は進歩し、社会を形作ってきたのです。

そして、皮肉なことにというか、おもしろいことにというか、こうした合理性に基づく知性を持つからこそ、人間は、偶然性に気づくことができます。だって、原因を追及し、なんでだろう、これからどうなるのだろうと筋道を求めるからこそ、そこから外れたものを見つかることができるのではないですか？合理性がなければ合理性を壊すスリルが味わえないように、「こうなるはずだ」という必然性の予測がなければ、「こんなことありえない」と偶然性に驚くことができない。³合理性を求める人間のあり方と、どうしようもできない現実の足下に潜む謎、偶然性。その間で私たちは生きるものなのだ、ということが『偶然性の問題』を読むとひしひしと伝わってきます。

(宮野真生子・磯野真穂『急に具合が悪くなる』による)
出題の都合上、一部編集した箇所がある。

注 九鬼周造：(一八八八年〜一九四一年)哲学者。著書に『いき』の構造」や「偶然性の問題」などがある。

問一 二重傍線部 a ～ e について、漢字は平仮名で、カタカナは漢字で書け。

問二 空欄 I ～ III に当てはまる言葉を、次の①～⑨の中からそれぞれ一つ選び番号で答えよ。

- ① または
- ② さらに
- ③ しかし
- ④ もし
- ⑤ 一方
- ⑥ まず
- ⑦ たとえば
- ⑧ こうして
- ⑨ それから

問三 空欄 A ・ B に当てはまる言葉の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び番号で答えよ。

- ① A 前人未到の霊峰 B 人間の手の及ばない空間
- ② A 護岸工事の行われた河川 B 技術の力で作り変えられた空間
- ③ A どうなるかわからない荒野 B 人間の力で整えられる空間
- ④ A オアシスのない砂漠 B 人間が計画できる空間
- ⑤ A 放置された耕作地 B 人工的に開発可能な空間

問四 空欄 C に当てはまる言葉を、次の①～⑤の中から一つ選び番号で答えよ。

- ① 取るに足りない
- ② 胸が躍る
- ③ 理にかなった
- ④ 肝をつぶす
- ⑤ 突拍子もない

問五 傍線部 1 「もつともらしい原因」とあるが、文脈上同じ意味で使われている表現を本文中から十四字で抜き出せ。

問六 傍線部 2 「最終的にすべての物事の根本には、なぜいまこんなふうになっているのかを説明することのできない謎が残る」とあるが、それはどういふことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び番号で答えよ。

- ① すべての物事について後付けの原因を見つけることができても、流れていく時間のなかで様々な変化がある以上、各種の原因がいま目の前のものにどう収斂されているかを完全に説明することはできないということ。
- ② 私たちが生きる現実のすべての物事についてもつともらしい原因を見つけることができても、複数の理由が重なっている以上、どの一つが原因かを特定することはできないということ。
- ③ すべての物事の必然といえる原因を見つけることができても、その必然性が証明されない以上、最終的に物事の根本的な原因とすることはできないということ。
- ④ すべての物事の根本にある、必然的な根拠を見つけれなくとも、この世界は常に矛盾しているため、合理的理解に基づく未来の予測は成立し得るということ。
- ⑤ すべての物事について様々な原因をあげることができても、その複数の原因がなぜ偶然重なったかを言えない以上、四つ葉のクローバーの出現条件を合理的に説明することはできないということ。

問七 空欄 D に当てはまる言葉を、次の①～⑤の中から一つ選び番号で答えよ。

- ① 「未来の出発点」
- ② 「現実の生産点」
- ③ 「将来の分岐点」
- ④ 「未来の終着点」
- ⑤ 「現実の成立点」

問八 傍線部3 「合理性を求める人間のあり方と、どうしようもできない現実の足下に潜む謎、偶然性。その間で私たちは生きるものなのだ」という筆者の主張に対してあなたはどうか考えるか。本文の内容を要約した上で、あなた自身の経験を織り交ぜながら、二〇〇字程度で述べよ。

二〇二六年度 一般選抜（Ⅰ期）試験

『国語』出題の意図・解答例

■出題の意図

大学入学後の学習の素地となる国語の力を問うことをねらいとし、以下の問題を設定した。現代文においては、長文の論旨を的確に読み取る知識・技能を問うと共に、自身の経験と結びつけて論理を組み立てる、思考力・判断力・表現力を問う。

■解答例

一 岩内章太郎「〈私〉を取り戻す哲学」

問一 a 媒介 b 刷新 c 凝 d 遺憾 e 鉛筆

問二 ②

問三 ①

問四 ②

問五 ⑤

問六 ③

問七 ②④

問八 〈解答例〉

変身後もなお、変身前と変わらないものが〈私〉であるという筆者の主張に同意する。なぜなら、私自身、SNS上でどれだけ強気なキャラクターを演出していたとしても、常に優柔不断な自分と葛藤することは避けられない。また、ゲーム上の知的なキャラクターになり切っけていても、結局は私の元々持っている知識に依存している。そういった、消しきれない自分の性格や思考力は、〈私〉の自由にはならない〈私〉の存在を示唆していると実感できる。

二 宮野真生子・磯野真穂

『急に具合が悪くなる』

問一 a のつと b ほんろう c 気象衛星 d 探索 e 集約

問二 I ③ II ⑧ III ⑦

問三 ③

問四 ⑤

問五 思考の筋道に一致しているもの

問六 ①

問七 ②

問八 〈解答例〉

一見、必然性があるように見える物事であっても、最終的にはどうすることもできない偶然性が常に残っていると筆者は考えている。私もこの考えに賛成である。私は、学校にぎりぎり間に合う時間に家を出たが、その日は信号が赤になることが多く、遅刻してしまったことがある。全ての信号が赤であるとして家を出たとしても、靴紐が切れる等、他の予測していない事態が起きることもあるはずである。どこまでいっても確実な状態であるとは言えない。